

令和元年度 第4回  
我孫子市総合計画審議会  
全体会

令和元年12月22日（日）

我孫子市企画課

(全体会)

○藤井会長 おはようございます。

定刻になりましたので、第4回の我孫子市の総合計画審議会、こちらを進めてまいりたいと思います。今、お一方いらっしゃいました。もう一方いらっしゃるご予約でございますが、ちょっと遅れられているようでございますが、進めてまいりたいと思います。

これより座って進めさせていただきます。

それでは、まず本日、この会議の傍聴でございますが、傍聴を認めておりますので、傍聴者2名いらっしゃっているということでございます。お入りいただいて皆さんよろしゅうございますね。

それではよろしく願いいたします。

(傍聴者入室)

○藤井会長 それでは、傍聴の方、朝からご苦労さまでございます。傍聴規定にのっとりまして、対応よろしく願いいたします。

それでは、早速でございますが、審議内容のほうを進めてまいりたいと思います。

皆様、次第を見ていただきまして、第1番目、第3次基本計画の見直しに係る方針ということでございます。

こちらのほう、事務局、準備はよろしゅうございますか。

○事務局 それでは、今ご紹介ありました、審議内容の1番に先立ちまして、お手元の資料の確認をさせていただきたいと思います。

まず、A4、1枚で本日の次第、すみません、この次第で1件訂正がございます。

大きい2番の審議内容の(2)土地利用構想についてですが、利用という単語が2つ入ってしまっていますので、こちら訂正お願いします。

次第の次が右上に資料1とあります「第三次基本計画の見直しに係る答申書」、続きまして、右上、資料2「土地利用構想」、続きまして、資料3「基本目標の文面」です。続きまして資料4、こちら複数枚ございますが、「市民アンケートの調査報告書 抜粋版」になります。続きまして、A3番で資料5-1「将来目標人口(案)」、裏面には資料5-2が印字しております。そしてA4サイズで資料6「将来都市像(案)」、本日の会議資料は以上になりますが、加えて、皆様に参考資料として本日ホチキス留めの冊子を2つお配りさせていただいております。こちらは、今月の27日からパブリックコメント行う予定のものでして、まず1点目が「我孫子市第3次総合計画 第3次基本計画中間見直し(案)」になります。そして2点目が

「我孫子市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、こちら、当時作ったときの写真として、水の館写っていますが、隣が田んぼになっているんですが、今は駐車場として整備しておりますので、新しい画像を差し替えてパブリックコメントとする予定です。

なお、この「まち・ひと・しごと創生総合戦略」につきましては、今後、皆さんに内容を審議いただいている第4次総合計画に、令和4年度からは一本化して作成する予定になっておりまして、令和2年度から3年度までの2年間の現戦略を延長してつくっているものになります。お時間あるときにお目通しいただければと思います。

それでは、審議内容の1番に入りたいと思います。

○事務局 では、これから答申のほうに移らせていただきたいと思います。

まずは、会長のほうから、皆さんのお手元にも資料の中に答申案がお配りされておりますので、そちらをご覧くださいと思います。

それでは、藤井会長のほうから一度お読みいただいて、その後に市長のほうに答申をいただくということで進めさせていただきたいと思います。

最後に写真撮影をしたいので、後ろのほうを使いますか。

○藤井会長 そのほうが広いですね。

ちょっと移動していただいて。

○事務局 それでは皆さんちょっとご移動いただいて、後ろで最後に写真撮影をした後に、再度、審議のほうに移らせていただきたいと思います。

では、藤井会長、よろしくお願いします。

○藤井会長 それでは、座ったまま、引き続き説明させていただきますが、今回、市長より諮問いただきました第3次基本計画の中間見直しということで、皆様方に非常に多くのご意見をいただきました。特に私、いろいろな審議会にかかわっておりますが、日曜日にこのような形で集まって、10時から12時では足りなくて、もう9時半からやるという、これだけご熱心なご議論いただいたというのは、久々でございます。そういった中で、非常にいろいろなご意見を出示いただきました。

特に、中間見直しの中では、やはり総合計画の場合、アウトカムといったような形で目標値を掲げて議論をしなければいけない。その目標値が本当にその当時正しい見方、あるいはその当時の水準で目標として本当によかったのかどうか、そういうところの確認も含めた形のアウトカムといった形の評価をしなければいけない。さらに、これから先といったところに向けて、この目標値が本当にどのような方向性として確認していったらいいのか、あるいは、私もこう

いうアウトカムには、どこまで本当にやっただいのかといつも悩むところではございますが、必要条件と十分条件をどう満足できるものなんだろうか。確実にできるようなアウトカムはない。それに近づくためにも、どういうことが地域の方たちが実感として捉えられるような指標値かといったものを模索しながら進めていく。そういった中で、今回次の四次の計画に至る過程の中でも、こういった評価の視点といったものを皆様方からもいただいたところでは、非常に大きなご意見の集約が今回できたでないかというふうに思っております。

その中で、改めまして答申という形でさせていただき内容につきまして、これより読み上げさせていただきますので、まず皆様方、非常に多くのご議論いただいたんですが、答申書の中には総括と付帯意見という形でコンパクトにまとめさせていただいておりますので、改めましてご確認いただきたいと思っております。

それでは、令和元年12月22日、我孫子市長、星野順一郎様。

我孫子市総合計画審議会会長、藤井敬宏。

令和元年6月22日付け企画第141号「我孫子市総合計画について（諮問）」により諮問された「2. 第三次総合計画第三次基本計画の中間見直し」について、当審議会において審議した結果、次のとおり答申いたします。

記。

#### 1. 総括

これまで市が推進してきた第三次基本計画については、細部に関する検討が必要なものや遅延等があるものの、全般的には概ね妥当であると評価します。

施策における指標の目標値については、現在、策定中の第四次総合計画で、市民アンケートにおける満足度や現状を十分踏まえた上、適切な数値を設定するよう努めてください。

引き続き、市民と行政の協働のもと、本計画で示す将来都市像の着実な実現を求めるとともに、次の意見を付します。

#### 2. 付帯意見

計画策定に伴い実施した、市民との意見交換や市民アンケートの結果を見ると、これまで積極的に取り組んできた子育て施策などは一定の評価を受けているものの、インフラ整備については厳しい意見をいただくとともに、施策の満足度は低く、施策の重要度は高くなっています。

我孫子の玄関口である我孫子駅と手賀沼を結ぶ「手賀沼公園・久寺家線の整備」は、事業を開始してから、かなりの時間を要していますが、未だに完成していない状況です。

そこで、人口減少社会に対応した施策に引き続き取り組むほか、手賀沼公園・久寺家線の早

期完了を目指すとともに、市民生活に密着したインフラ整備に積極的に取り組んでください。

以上でございます。

○事務局 ありがとうございます。

それでは、答申を受けまして、市長のほうから一言いただいてから、移動していただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○星野市長 皆さん、おはようございます。

皆様方には、随分とお忙しい時間を何度もこの総計審にご協力いただいて、本当にありがとうございます。

答申にもありましたが、現総合計画における進捗状況については、順調とは言えないという事業もございました。目標値については、参加人数あるいは子どもの人数など、設定しているものについては、少子高齢化、そして人口減少の影響によって想定以上に伸びなかったことは原因の一つであるとも考えております。

付帯意見にもありましたように、手賀沼公園・久寺家線の線については、我孫子市としても更に努力をしていくところでありますけれども、こういう事業は地権者のご理解とご協力というものが一番大きくなってしまっていて、これになかなか苦慮しているところでございます。とはいっても、今年度中に確実に合意が得られなければ、次の手段というのを踏まえるということで、3回目の延長を国交省からも認めていただいておりますので、これで合意が得られない場合は、次のステップに入らざるを得ないというふうに、臨もうと思っているところでございます。

目標としてきた事業年度に完了しないという状況でありますけれども、何とか実行に向けて、再度地権者と最終の詰めに入らせていただければというふうに思っているところでございます。

また、本計画の期間内に完成を目指していましたクリーンセンター、この建て替えについても、地元との合意に丁寧に対応してきたところです。また、他の都道府県に比べて千葉県は環境アセスとしては97だと、その環境アセスをやっている最中に猛禽類が出てきたり、あるいは土壌調査の結果、土壌汚染対策の工事が必要となったりという状況で、非常に手間もかかりますけれども、何とか来年度からは工事に着手して、令和4年度中の完成、そして令和5年度中の稼働という形で、今、環境省とも最後の調整をさせていただいているところでございます。

いずれの事業におきましても、早期完了を目指して行っていくことを急務とさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

長い期間にわたっての審議、本当にありがとうございました。

○藤井会長 それでは、この後、写真撮影というのが残っておるんですが、写真撮影を私すっかり忘れておまして普段着で来ておりますので、皆さんも気にせずという形で望んでいただければと思いますが、写真撮影に当たっては、ちょっと移動をいただきます。

傍聴の方は後ろに坐っていただいているんですが、後ほどで結構でございます。ちょっと移動していただきながら、撮影の場所を確保していきたいと思っております。

その移動の前に、皆様方にただいま私のほうから全般的な印象と答申内容という形でご説明いたしました。この見直しにおきましては、大きく2つのグループに分けて議論を展開し、それをまた合わせてという形の中で、全体像を見直す取り組みを行ってまいりました。そこで、この総計審のメンバーから、その感想を含めて、あるいは市長への要望といったような点も含めて、お話をしていただきたいかなと思っております。

まず、予定しておりますのは、副会長の林先生とそれからAグループから山内委員、それからBグループから武田委員という形でお話を進めていただき、できればお時間の許す限りお話を伺いたいと思います。また、次世代を担う若い人たちの声も是非発信してほしいなという気持ちもございますので、ご意見等があれば伺ってまいりたいと思います。

それでは、早速でございます。副会長、林委員からお願いしたいと思っております。

○林副会長 副会長を務めさせていただいております中央学院大学、林と申します。

この中間見直しが藤井会長のもと、また皆さんと活発な議論をいただきながら、何とかここにたどり着けたということで、私自身、副会長という職を拝命いたしまして安心しております。先ほど、答申の内容にもございましたけれども、今後人口減少社会が大分厳しくなってくるという中におきまして、大学の教員という立場はございますけれども、できましたら、特に子どもたちが日ごろの中で夢を持てたりですとか、あるいは次の世代につないでいくための若者というところが、やはり大事になってくるんだと思います。

また、若者を大事にするということの中で、我孫子から一度出てしまうという流れが現在ございますけれども、なるべく我孫子はいいいところですので、定着していく、そういったあたりの施策も、ぜひよろしくお願いしたいと思っております。

また、将来がなかなか見通しができない中ではございますけれども、市民の意見でさまざまなニーズが今回はアンケートの中ではっきりしてきてございます。ぜひとも、こういった施策実施は事務局の皆様にもお願いしたいというふうに思っております。

私からは以上です。

○藤井会長 それでは山内委員、今マイクが届きますので、よろしく申し上げます。

○山内委員 おはようございます。ヨーカドーの山内でございます。

我孫子市に住んでおりますので、地元の意見をちょっと述べさせていただきたいと思います。

私のグループは土地利用構想ということで、安全で安心な我孫子市ということで議論させていただきました。今回台風等々ありまして、私、長野地区行ってまいりまして、非常に交通機関が寸断された状況の中で、上田市のほうから救援物資を会社として要請されまして、それを実行しました。我孫子市もいろいろな企業様と包括協定結んでいらっしゃると思うんですが、いざそのときになったときに、救援物資が本当にスムーズにできるのかということが、現場に行ってみると感じました。

ですから、星野市長には、何にもないときに、そういうシミュレーションをどんどんやっていただきたい。ないにこしたことはないと思います。それと、市民のアンケートで、いろいろ工事含めてやられているんです。2008年頃にはまだ泉地区は浸水していて、本当に私二十数年住んでいますけれども、あそこが通れなかった。びっくりしたんです。本当に車に水が入ってくるぐらいの、60センチぐらいでしょうか、洪水になっていまして、それも近年改善されているんです。ところが市民の皆さんにアンケートをとると、浸水対策は遅れている。何やっているんだという意見ばかり出てくるんですけれども、実は、現場にいる人しかわからない。近くに住んでいる人しかわからないというのが現実なんです。

ですから、星野市長は本当に子育て支援等々含めて、いろいろなところにご参加されて、私どもも本当に感銘を受けているんですけれども、やはり、市民の皆様にもっともっとPRする方法は幾らでもあるんじゃないかなということが、今回の総合計画の審議の中で感じられましたので、ぜひ伝え方に関しましては、市の方も含めて、私どもも含めて努力していかなければいけないと思っております。

以上でございます。

○藤井会長 それでは、続きまして、Bグループからということで、武田委員、お願いいたします。

○武田委員 公募の市民の武田と申します。

まず、このような総計審というような企画に参加させていただきまして、本当にありがとうございます。私、Bグループで子どもの教育とか、環境の部分を担当させていただきまして、私、子どものころは福岡県の北九州というところに住んでいまして、近くには八幡製鉄所という大きな重工業があるんです。そのような中で、私が体がちょっと弱かったので、小児結核になった。子どものころは、本当に病院に入退院を繰り返すような生活を過ごしてまして、二

十歳のときに、手賀沼のほうに遊びにきたときに、こんな首都圏ですてきな街があるんだということを実体験して、我孫子に居を構えるきっかけになりました。

ですので今、こちらで子ども2人を育てておりますし、私自身も空気がいいせいか、健康に過ごさせていただいております。親世代の私どもとしましては、環境リテラシーの高いような、お父さん、お母さんを我孫子市にお招きいただくような施策と、子どもにこのような自然をしっかりを残していただけるような施策と一緒に考えていけたらいいなと思っております。

私のほうから以上でございます。ありがとうございます。

○藤井会長 どうもありがとうございます。

今、お話を伺っていると、市長のこれまでの取り組み、順調に来ているんだけど、なかなかPRがうまくいかない。どちらかというと、市長が安心して帰れるようなご意見が今多いかなと思いますので、あるいは、こんなこと、もうちょっとやってほしい、あるいはこんな意見が実際はグループの中では懸念することもありました、なんていうことでも結構でございます。これからは少し何人かの方、まだお時間があるようでございますので、ご意見のある方、伺ってみたいと思いますが、いかがでございましょう。どなたでも結構でございます。

先ほど、ちょっと冒頭でお話をしました。せっかくですので、質問もしなければ、若い人たちの声、私聞いてみたいと思いますので、心の準備だけしておいてください。

いかがでしょう。学生たちが不安にならない程度にご意見をさせていただける方がいらっしやったらいいかなということでございます。特にございませんですか。なければ、もう若い方に直接お話を伺ってしまいますが、本当に皆さんよろしいんですか。

それでは、1人ずついきましょう。腹をくくってこういうときは話をする。学生さんということで、たしか学生さん3名ですよね。順番にお願いいたします。

○橋本委員 橋本と申します。若松のほうに住んでいます。

大学の友人とか、結構我孫子という名前を周辺とかで知っている友人も多いんですけど、じゃ、それはどこにあるのとか、どういうところなのみたいなのは、全然知らない人が多いんです。名前は、読み方とかもインパクトがあって、知っている人も多いと思うんですけど、実際に、さっきお話しされたのとちよつかぶるんですけど、どういうところが魅力的なのかとかというPRというか、全般的に知ってもらえるような広報活動みたいなのもう少し力を入れていただけたらなというふうに思います。

以上です。

○藤井会長 お願いいたします。



○松山委員 川村学園女子大学の松山と申します。

私は、友人が大学にいるんですけども、その子は福島の子なんです。寮を借りて我孫子のほうの大学に来ているんですけども、我孫子ってどう思うって聞いたことがあって。そうしたら、地元とよく似ている。自分の福島の地元とよく似ているから、安心するからこら辺で就活しようかななんて話もちょっと聞いたりとかして、でも、言っただけなんですけれども、我孫子レベルの都市って結構あるじゃないですか、関東圏内の中にも。だから、先ほど橋本さんがおっしゃられたように、ほかの似たような地域と我孫子はいったい何が違うのかというの、ちょっとどうなんだろうと思ったりとか、あとは、先日放送されたアド街ック天国という番組の中で、我孫子市のことが特集になっていたんですけども、私も父が結構我孫子のことを考える人なので、ちょっと見てみようかということで見たんですけども、内容としては、中心が文豪。白樺派の文人たちのお話しが中心で、それにかけて鳥の博物館の話とか、あとは、ちょっと我孫子駅の近くにある喫茶店のお話だとかがあって、じゃ、我孫子は文人とかの話抜きにして、土地として何かいいことは都市部に近いからそれだけなのみたいな、結構、余り我孫子自身何かがあるというふうにはとれなかったんですね、その番組を見ていて。

なので、ちょっと難しいかもしれないんですけども、新しく何か我孫子はほかのところとは違ってこういうのがあるんだよとか、新しく何か取り組み始めるとかというものができたらいいのかななんて思ったりもしてしまいました。

すみません。以上です。

○藤井会長 ありがとうございます。

我孫子の姿といいますか、シンボリックなイメージといったものがなかなか伝わりにくいねというか、若者世代にはと行ったところがあるんでしょうね。

それでは、すみません、お願いいたします。

○佐藤委員 中央学院大学の佐藤と申します。

大学のほうが我孫子市に存在しておりまして、授業とかでも我孫子市についてとかやったりしておりまして、我孫子市の子育ての充実とか、充実した我孫子をもっとPR、広報とか通してしていただけたらなと思います。電車とかに乗っていると待機児童ゼロとか、そういうものに取り組んでいるので、ほかの点も着目しながらPRしていただければなと思います。以上です。

○藤井会長 ありがとうございます。

今、お三方にお話しをしていただいたんですが、私、今ちょうど総合計画かかわっているの

が、品川とそれから市原、市川、そしてもう一つ、裾野という、ここを入れて4つの都市が今総合計画動いています。その中で、この我孫子市の取り組みを少しご紹介しています。

というのは、学生さんの声を聞く、あるいは中学生、高校生の声を聞くということでアンケートをして、それを計画の中で紹介をする例というのは確かにたくさんやられているんですが、委員の中にこういう形で若い人たちが入って、それで実際に意見を交わして、将来の我孫子をどういうふうに考えるかといったところを、次の世代につなげる仕組みをとっているところはそう多くはないんです。私も4つの中の一つ、ここ我孫子市しかやっていません。

そういった中では、なぜそういうことができたのかということ、他市のところでよく聞かれます。そういった面では、若い声が次の我孫子市の力になるということで、今はやはり若者に伝わらない、そういった側面も我孫子市らしさといったようなものであり、あるいは先ほどから出てきていた、いかに我孫子市といったものの、良さといったものを伝える伝え方、住まう、働く、憩うと、そういったような側面をいかにPRしていくか、これは非常に大事ななというようなご意見だったなと思っています。

今、一言という形でご意見を伺ってまいりましたので、少し市のほうからこんなことができそうだとか、あるいはこういった点は今進めているけれども、まだまだ足りなそうだとかという若い世代の声に対してということで、少しコメントいただけるようでしたら、お願いできればと思うんですが。

○星野市長 先ほどの山内委員、武田委員のほうからあわせての返事を。

○藤井会長 はい。

○星野市長 まずは、土地利用なんですけれども、私自身も市長に就任して13年目になりましたけれども、市長に就任して一番びっくりしたのは、我孫子はこんなに水害に弱い街なんだと実感しました。私自身は子どものときから生まれ育ちは湖北ですから、湖北はほとんど水害がないんです。ただ手賀沼がありましたんで、手賀沼の水害というのは、うちの年寄りからずっと聞いていました。うちのおじが長く手賀沼土地改良区の理事長をずっとされていましたから、湖北から東側の手賀沼というのは江戸時代から水害との戦いで、これをどうするか、ただ住宅地までは来なかったものですから、農業被害としての水害というのを非常に昔からよく聞いていました。

ただ、市長に就任してみると、時間降雨27ミリで床下浸水、床上浸水が出るような非常に貧弱な水害対策しかやってこなかったというのを知って、市内9か所が水害の常襲地帯だということをつかかった上で、インフラ整備についてはお金をかけてこなかった。お金をかけてこない

ということは、いわゆる借金が少ない。借金が少ないのと、安心して眠れる街というのは全然違うんだということを実感しましたら、国や県などあちらこちら駆け回りながら、水害対策に対する国や県の補助金を確保し、12年間で約80億円を超える水害工事をやってきました。ただそのときに一番大変なのは、地権者の理解が得られるか、協力を得られるかというのが非常に大きくて、道路整備にしても少しずつ進めてきましたが、やはり大変なのは、地権者の理解と協力ということだと思っています。地権者の理解と協力を得られるためには、私自身も何度も地権者のところに行きましたし、地元の県会議員や市会議員にも協力してもらいながら地権者と知り合いの方を随分と口説きながら、協力をしてもらおうということをやってきました。

先ほど、泉地区の話もありましたけれども、整備したら大分水害は解消してきたというふうな実感をしています。無駄な事業をしてこなかったなど。ただ、いかんせん、まだまだ心配なところはいっぱいありますので、もう一息だというふうに思っています。

今回の台風と10月25日の大雨では、時間降雨的には42ミリぐらいだったと思うんですけども、積算降雨量は半日弱であるにもかかわらず、約200ミリを超えて204ミリだったかと。床下浸水だけで済んだんですけども、床下が店舗内浸水を含めて6件出るという状況の中で、その地域はまだ完全に終わっていないものですから。東日本大震災でポンプ場はつくって完成しているにもかかわらず、街の中が東日本大震災で地盤沈下を起こしたものですから、ポンプ場まで持って行く水路がたわんでいて、街なかの水を排水する能力が大きく欠けてしまったと。これを今、改修工事を続けている最中です。

まだまだやらなければいけないところはたくさんあるんですけども、その地区に住んでいる人たちは理解をしてくれていますが、ほかの地区に住んでいる人にPRすることはなかなか難しくて。自分が住んでいない地区については、余り関心を持っていただけていないので、そこについてはなかなかPRの仕方というのは難しいなというのは実感しています。ただ、そこに住んでいる方々が実感してくれると、そうじゃないよと、市民の方が伝えてくれるというふうに思っていますので、ここは着実にやっていくことが必要だというふうに思っています。

安全・安心というのは、災害が起こったときに、いかに自然災害を軽減できるかという取り組みを続ける必要があるだろうというふうに思っています。

先ほどの支援物資、実際どうなのかと。今回の台風15号と19号では、東葛地域はほとんど被害が軽かったので、支援する側に翌日から回っていました。我孫子も、実際に、館山だとか、鴨川に職員を派遣したんですけども、通常だったら3時間ちょっとあれば着くはずが6時間、8時間かかったと。停電が長引いていて倒木がたくさんあって、通常だったら通れる道が行っ

てみたら通れないという状況の中で、持って行くだけで時間がかかったという状況がありました。逆に、東北にも派遣したんですけれども、東北のほうがスムーズに着いたと。同じ県内に行くよりも東北のほうが時間的にはスムーズに着いたというケースもありました。

今回の台風については、通常の災害というよりも、道路が通れなかったときにどうなるんだということを非常に実感したなど。ましてや停電している最中だから、夜だと全部電気がついていない地区の知らない道を職員は右往左往しながら行くわけですから、ここはやはり、どの物流についても多分同じことが言えるんじゃないかというふうには感じました。そこについては道というのを確保する。実際に8年半前に我孫子のまちは被災地になりましたけれども、実際に市役所から10キロぐらい離れた布佐地区に、毎日のように職員や必要な物資、なくなった物を往復をして運んでいましたが、実際に我孫子の東西をつなぐ主な幹線道路と言ったら3本しかないんです。手賀沼沿いの356バイパス、真ん中に走っています356、土手沿いの県道、この3本が大動脈になるんですけれども、このうちの356が通行止め、そして土手沿いの県道は布佐地区で片側通行止め、沼沿いの356バイパスはあと400メートルほどですが、来春には完成する予定ですが、これがあのおり狭いという状況の中で、物資がなかなかスムーズに運べなかった。

ただ、同じ市内ですから、時間がかかっても必ず数時間後には運べるんですけれども、やはり道路インフラというのは大切だというのは災害が起きてみると、その重要性は非常に実感をしていました。さまざまな状況の中で、まだまだご指摘のようなインフラ整備というのは、いざ災害のときに大切な役目を果たすということと、私が学生のときに通った成田線からは随分便利になったんですけれども、成田線はまだ不便なものですから、若い人たちには魅力のない地域だなと感じてしまうので、成田線の不便さを補完するバスが通れるような道路の拡張というのは必要になってくると思っています。

インフラ整備ではやはり地権者の理解とあわせて、費用も随分とかかるものですから、着実に財源を確保しながら、地権者の理解を求めるためには、職員だけに任せないで、私自身が交渉に行く必要があると実感をしています。

先ほど申しましたけれども、ある程度期限が来たときには、強制も仕方がないかなと、その覚悟をするかしないというふうに思っています。

それと、武田委員からのご意見ですが、私自身も医療職で、小児歯科、障害者歯科、高齢者歯科、ずっとやってきました。その中で子どもたちを大切にしていこうというのは、私は一番必要なものだというふうに思っています。

普段、子どもたちと学校現場で給食を食べながら一緒に話を聞くんですけども、ちょっとわがまま言っているなというときは、偏った反論してみるんです。ちょっと甘えがあって、楽しくしようとしているんじゃないかと、いろいろ言っているんですけども、子どもの視点でおもしろくて、確かにそのとおりという点もありますし、わがまま、甘えているなというところもあるし。それはそれで子どもたちに押し返してみると、子ども同士で「それはお前甘いよ。」と言ってくれるのは我孫子の子どもたちのいいところですよ。いいところも悪いところも含めながら、子どもたちの素直な意見を取り入れて、ここが自分たちの地元なんだという意識をこれからも持ってもらえるように、努力を続けたいと思っています。

手賀沼を中心にして、この水辺環境と緑の自然環境というのは、我孫子を住宅地として発展させてきた大きな要因ですから、これからも大事にしていきながら、プラスアルファで、更に若い人たちが住みやすいと感じてもらえるようにしていく施策が必要になるんだろうなというふうに思っています。

これからも子どもたちを大切にしていきながら、子どもたちが自分の街の自慢話ができるようにまちづくりにしていければというふうに思っています。ただ、ほかの街の住んでいる若い人たちに聞いてみても、余り自分のところの街の自慢話ってできないんだというのは実感していますから、そこはこれからも意識しながら、自分の街の自慢話ができるような大人になってもらえるような施策をしていきたいというふうに思っています。

橋本さんのご意見についてですが、これはなかなかPRが難しく、市長に就任したときに、我孫子のPRが下手だと随分と市民からも言われていて、若い職員を中心にしてプロジェクトチームをつくったのですが、これは公務員では無理だろうという結論に達して、あびこの魅力発信室をつくり、メディア関係の出身者の室長を招いてPRをしてもらっています。

ここは市として市民に知らせなくてはいけない分野については、広報紙とホームページを中心に、市外の人に対するPR・魅力発信については魅力発信室でという形で役割分担をしています。当然ホームページも活用するんですけども、電車の中での広告であったり、マルチビジョンを使ったPRなど、さまざまな形で我孫子のPRに努めているんですけども、いかんせん、幾ら費用をかけたらいいのというところが難しく、毎年1,500万円ぐらいに費用で、どこからPRするか、どこの地域にPRするかというのも工夫してもらっています。

幾らかけたらどのぐらいPRできるのかというのはなかなか難しいところと、いわゆる商品のコマーシャルではないので、そこまではできないと。やはり、税金の中でやりくりをするわけですから、PRに1,500万円かけて、他のことに幾ら使っているのという状況になると、こ

のバランスも非常に難しいなというふうに思っております。

来年は、市制50周年、そしてオリンピック・パラリンピックの年です。このオリンピック・パラリンピック、それと聖火リレーで大体1,000万円、それと50周年についても1,000万円程度を目標に、新年度の予算組んでいるんですけども、PRに1,500万円かけて、50周年とオリパラに2,000万円と言ったらどうしようかという状態で、実際に50周年とオリパラと聖火リレーについても、厳しく予算査定に入っていますけれども、このPRの仕方、もし大学生の皆さんでこういうPRしたらいいんじゃないかと具体的な例があったら、ご協力いただければなど。

慶応大学の学生さんに一回PRを手伝ってもらって、ユーチューブ用のPR動画をつくってくれたんですけども、やはり慶応の学生さんたち、東京の西側に住んでいる人たちが中心だったので、その人たちから見ると我孫子を中心にしたこの常磐線沿線のほうが、アパート代も安いし、土地も安いし、時間もこっちのほうが近いしと、そっちに大きく興味を引かれていたようで、そういう視点を中心にPR動画をつくっていました。

それぞれ、自分たちが住んでいるエリアから見た我孫子の立ち位置、どこに着目してどういうPRをつくるかというのはそれぞれ住んでいるエリアによって大きく違うということを感じました。また、それぞれの大学、年代で多分着目するところが違うと思っていますので、ぜひ具体例、あるいは自分のところの大学のゼミではこういうのをやっているというのがあったら、ぜひ教えていただけるとありがたいなと思っています。

松山さんの意見は、なかなか難しく、ほかの街との違いって先ほど言ったように、うちの職員の採用面接で大学出たばかりの子たちに聞くんです。大体が我孫子の出身者ですけども、よその街で生まれ育った子もいて、自分の街のPRさせてみると、みんな似たり寄ったり。なかなか自分の街のPRって、その年代からすると難しいんだなというのを非常に実感しています。だから、聞くときには、自分が住んでいる街のいいところ、悪いところ、市のその街と比較した我孫子のいいところ、悪いところというのを大体質問するんですけども、ホームページを見てない学生さんはまず答えられないですね。少なくとも職員採用試験のときぐらいは、我孫子のホームページぐらいは見てから来いよと言いたくなるぐらいですけども、そういう形で自分の街のいいところを一つ話ができるか、自分の街の逆に悪いところを話ができるかというのは、非常に職員の採用のときには、学生じゃなくても、一回民間の会社に勤めてから市の職員になろうとする人にも、必ず聞いています。

逆に、それは市としてはやってはいけないだろうというのも、求められるときがある。

この前、大学生と話をしたときに、我孫子駅にいわゆるエキナカがあればという意見を聞き

ました。これは、税金を投入してはまずいと思いました。あったらいいなというのは、これから先のまちづくりでは、行政としてはやっちはいけないことだと私は思っています。あったらいいなでなくて、必要なもの、本当にほかの事業をカットしてでもやらなくてはいけないものは、行政としてやらなくてはいけない。あったらいいなをやってしまうと、これから先、かなり厳しい状況をつくってしまいますから。例えば市として、大型のショッピングセンターを誘致するかどうかという許可は与えられても、そこの造成をしていいのかとかというのはなかなか難しい判断だと思っており、それは、民間にやってもらうべきだというふうに思っています。どこまで市の税金を投入してでもやるべき事業かとかというのをよく見ながら、対応していきたいというふうに思っています。

佐藤さんからの意見ですが、子育ても先ほど言ったよう魅力発信室のほうで、電車の中刷り広告を出してみたり、動画を流してみたりといろいろやっているんですけども、なかなか難しく、結構お金取るんです。JRにしてもメトロにしても。どの場所でなにをPRしていくのか、費用対効果のもっと高そうなところがあったら教えてくれるとありがたい。ほかにもここにいらっしゃるメンバーの中で、ここは費用対効果があって、比較的安いという企業があったら教えていただければと思っています。

しかし一番困るのは、待機児童ゼロ33年目に突入していますけれども、保育園の入園者数は、ある程度緩やかに伸びるという設定で、これまで定員数を増やして確保しているんですけども、PRをしすぎて、どっと引越して来られると、いきなり待機児童が発生する恐れがあるんです。今、一番ネックになっているのは保育士の確保です。例えば、保育園の定員枠が60名でも70名でも、予定どおりの保育士が来ないと、それだけでお断りせざるを得ない。これが一番のネックになっています。特に東葛地域は東京近いものですから、給料一つで我孫子に来る予定だった人が東京に行ってみたり、あるいは船橋に行ってみたりと、保育士さんの取り合いになっています。保育士さんが予定どおり埋まらないと、その定員60人は入れるはずなのに55人しか入れず、お断りせざるを得なくて、ほかの保育園で何とか調整してもらったりすると、最悪の場合には、きょうだいが別々の保育園になってしまうんです。その後、何とか早く同じ保育園になれるように職員のほうで調整はするものの、2、3か月くらい時間がかかってしまうというケースが、時々出てしまうという状況になっています。

国の法改正で、保育園は保育士だけでなく、幼稚園教諭あるいは小学校教諭の免許を持っている人であっても勤務できるよう緩和されたので、これで何とか対応しているんですけども、現実には、正職員で募集すると来てくれるんだけど、半年・数か月という雇用単位での臨時

職員では来てくれないという難しい問題を抱えています。

市としても、何とか保育園と保育士の確保を努力しているんですけども、保育士を確保するために、給与加算や家賃補助など、さまざまなことをやっています。この近くだけで保育士を確保しようとするとなかなか難しいものですから、埼玉や茨城など、他の地域から保育士さんを確保するために家賃を補助するんです。我孫子に住んでいただければ、次の年から市民税で返ってきますから、そういう形の取り組みをしています。いろいろな形でご意見頂戴しながら、何とかいい方法あればすぐその方法を実施する、やり続ける必要はあるなど思っています。

これから若い人たちに、住み続けてもらえるように、万が一大学に入った、あるいは就職したときに、他の地域に一時的には住まざるを得なくなっても、いずれは結婚したり、子どもが生まれるときには、やっぱり我孫子のほうが安心して住めるなどと言って戻ってもらえるような子育て施策を、これからも進めていければというふうに思っています。

本当にありがとうございました。

○藤井会長 市長、丁寧に各委員の意見に対しましてコメントいただき、ありがとうございます。こういう形で市長と答申という形の中で意見交換できるというのはなかなか機会がないと思いますが、次の四次の計画づくりに向けてということで、またいろいろな計画をつくり上げの中で、また市長とこういう形で意見交換できる場といった形につなげていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いします。

それでは、これから写真撮影ですね。

(写真撮影)

○事務局 それでは、申しわけございません。市長局、市長はこの後公務が入っておりますので、ここでご退席させていただきます。ありがとうございました。

○藤井会長 5分少々休憩をとります。

(休憩)

○藤井会長 それでは、皆さんお揃いでございますので、審議のほうに移らせていただきたいと思います。

それでは、2番目でございます。資料2をご覧ください。形になると思いますが、土地利用構想についてということで、事務局よりご説明いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局 それでは、お手元の資料、3ページ、土地利用構想をご覧ください。

これまで、大きな内容については、皆さんにご協議をしていただきました。さらに、イメー



ジ等のやりとりで皆さんからご意見をいただいたものを修正し、庁内の委員会等で諮りながら進めてまいり、今この形となっております。

最終的に今回修正をしたところが、大項目2の1番、快適でゆとりある住環境の形成を目指した土地利用のうち、2行目、下線を引いてありますので、ご覧ください。

後段に「変化する社会情勢に柔軟に対応し、道路・上下水道などの生活基盤を整備する」ということを謳っているんですが、ここについては空き家等の問題が発生しているのも、そういうことも踏まえた文章にしてほしいというご意見もいただきましたので、人口減少や少子高齢化などが影響し、今後、さまざまな課題が発生した場合でも読み込めるよう、「変化する社会情勢」の記載を追加しました。そ

次に、最後の項目です。これまでは新たな企業誘致に向けた土地利用となっていたんですが、企業誘致だけではなく、市では今、市内の事業者さんが他市に行かないような取り組みを進めなくてはならない。また、住工混在の解消ということで、住宅の中にある工場等を集めて、人が住んでいるところと工場を分ける、そういう施策に取り組んでおりますので、「企業立地」に変更させていただくとともに、新たな企業に来ていただくということも視点に置きながら、企業が進出しやすい土地利用を検討していくという意味で、改めて「企業立地に向けた新たな土地利用」ということに表題を変えさせていただきました。

文章については、企業誘致をどこでも進めるということではなく、住環境を踏まえ、近隣の意向を踏まえ、適地をきちんと市のほうで検討していくというところで、「新たな土地利用を適地において検討していきます」の1文を入れさせていただきました。

総計審の委員の皆様からは、当初入っていた、自然に関する文言がが入っていると、来る企業としては、他のところと変わらないという印象を受けるということでしたので、自然環境と都市環境が調和するということは除いております。

市が取り組んでいる企業誘致や工場を建てるというときには、必ず緑化のほうを進めなくてはならないというルールもありますので、ここに書かなくても、きちんと市の指導の中でできるという判断のもとに削除をさせていただきました。

以上で、説明を終わります。

○藤井会長 ただいま、事務局よりご説明ございました。

変更事由につきまして、何かご質問、ご意見等ございましたら承りたいと思いますが、いかがでしょうか。

○湯下委員 社協の湯下でございます。

答申につきましては、グループに分かれた中で意見を出した部分、クリーンセンター施設をつくっていく、そういったものが具体化していく中で、次の基本構想を考えたときに、総合計画の中でもっと具体的に社会インフラというか、施設計画の部分も積極的に書き込んでいく。そうすると、若い世代にもアピールできる。そんなようなことが書かれるといいなというような意見を言わせていただいた中で、付帯意見で、そういう部分を書いていただいたこと、非常にありがたいというふうに思っています。この答申をした上で、新たな土地利用構想というのは書かれているわけですが、これまでの土地利用構想と、この土地利用構想というのは大きく変わるのかどうか、考え方が変わっていくのかどうか、それだけ1点確認をしたいと思えます。

文章だけ言うと、先ほど説明されたとおり、人口減少や少子高齢化、これを受けて変化する社会情勢に柔軟に対応してというのは、まさにそのとおりなんだろうと思うんですけども、具体的な施策として、どういうことをイメージできるのかというのはとても難しい。先ほどの説明だけだと、ちょっとどうなのかというような気がします。そこら辺もあわせてお願いします。

○藤井会長 お願いします。

○事務局 では、全体的な説明が不足していたということで、改めて説明させていただきたいと思えます。

まずはご質問のありました、これまでの土地利用と大きく変わるのかというところですが、基本的に今まで市が進めてきた土地利用というのは、第三次総合計画で初めて明確にしております。見直し時には修正をかけて、我孫子の自然を大事にしていくというところに大きく視点を置きながら、企業等を誘致するという視点を加えたものとなっていました。この見直しを行ったのが、平成27年です。その方向性は、基本的には変わらないと考えておりますので、土地利用の基本的な考え方に、基本的にこれまでの方針を維持しつつというところをうたわせていただいています。しかし、それだけでは発展的な土地の利用など市の方向性が見えてこないというところの中で、具体的な方針として示したのが大項目2に掲げている5点になります。

一番冒頭でもありました安全・安心、こちらについては、これからの資料の中でも説明していきますが、これまで市民の皆さんと懇談をしている中では、非常に重視されているというところがありました。そのため、住みやすいまちという視点で、「快適でゆとりある住環境の形成」こちらを1点目に持ってきました。さらに、空き家等の課題も出てきておりますので、安全で安心できるまちづくりという視点をきちんとしていかななくてはいけないというところで2

点目に持ってきています。また、台風や集中豪雨などにより土砂災害等も発生が見込まれるところについては速やかに対応する、集中的に浸水被害が起きてくるところについては、地権者の理解を求めながら、きちんと土地利用を図っていかなくてはいけないということをイメージしています。

次に、3点目と4点目には、自然環境と活性化というところを示しておりますが、3点目は、自然と歴史文化。先ほど、アド街のお話も出ましたけれども、子どもたちの視点からは、やはり自然は大事にしてほしいと。我孫子地区では手賀沼、布佐のほうに行くとも緑が非常に多いので、そういうところは大事にしてほしいと、実際そういうお声も直接いただいておりますので、発展的な施策は実施しながらも、豊かな自然であったり文化もきちんと保全をして、住む場所、自然の場所、そして歴史文化がある場所、これをきちんと融合した形でまちをつくっていくというのが3点目になります。

4点目が手賀沼を中心としたということで書かせていただきましたが、皆さんもご存じのとおり、我孫子市のシンボルは手賀沼であると。もうちょっと違うところがテレビに出るといいかなという声もありましたが、アド街でも1位で出ていました。やはり、市民の方もシンボルは手賀沼というふうに考えておられます。この手賀沼を中心に活性化というところを進めていく中では、農地や畑等がありますので、そういうところとの融合、更にはどういう形で活用していくのか。そういう視点を踏まえて、我孫子新田地区、今の根戸の周辺です。わかりやすく言うと、手賀沼沿いを柏方面に向かう地区で、すし勢や新しくローソンができた地区です。また、鳥博の向かいになります。あの一帯を中心とした高野山新田地区、この2つの地区を我孫子の新しい地域資源として、活性化に向けた取り組みをしております。

具体的には、我孫子新田地区においては、農産物の直場所があった跡地がございます。ここに民間の活力というところで、今、民間事業者を募集して、新たな商業展開ができないかと進めており、手賀沼を中心とした周辺地区で新たな事業展開を進めていきたいというのが4点目です。

最後は、企業誘致は先ほどご説明したように、自然だけを守っていくというところではなく、これからの我孫子市がなかなか発展していかない。若い方たちが働く場所。我孫子地区は終点駅というところにもなっているので、都内に働きに行かれる方が非常に多い地区。布佐地区に行くと、印西方面の千葉ニュータウンが発展をしているので、そちらに働きに行く方がいらっしゃる。そうではなく、子育てをしながら身近なところで働いていただく、雇用の場所を創出するというところではなく、企業立地、企業誘致というのを進めていかなくてはならない。し

かし、企業誘致を進めていくためには、土地の利用方針等をきちんと市のほうで示し、さらにはどういうふうに見えるのかというところを具体的に検討していかなくてはならないということがありますので、5点目に入れさせていただきました。

具体的な事業がなかなか読み込めないというのは、おっしゃるとおりですが、こちらは基本構想の部分になるので、文面はいろいろなことを包括するような形で書かせていただいているというところもございます。この後に基本目標を8つプラス1つ、説明させていただきますが、より具体的な内容を見ていただきます。基本目標を掲げ、その下に各施策をぶら下げて、実効性のある内容を見せておりますので、そちらを聞いていただいて、またご意見があれば、頂戴できればと思います。

以上です。

○藤井会長 よろしゅうございますか。

○湯下委員 はい、わかりました。

○藤井会長 そのほかご質問、ご意見等ございますでしょうか。

特によろしゅうございますか。

それでは、現段階の土地利用構想ということで、事務局の修正ということと、皆様方ご了承いただければと思います。この形で進めまいると思います。

続いて、基本目標といったところも少し具体的に触れていきますので、3の、ページでいきまると5ページと、資料3の将来都市像ということで事務局より、ご説明いただければと思います。よろしくお願いします。

○事務局 資料は5ページとなりますので、ご覧ください。

基本目標について説明させていただきます。5ページの上段にあります将来都市像については、また別の項目で後ほど説明させていただきます。下に移りまして基本目標というところから入らせていただきます。

基本目標に関しまして、目標名と説明等についてはこれまでの審議会の中でご議論いただいた内容を踏まえて庁内で検討を重ねてきました。現段階における庁内でまとまったものを記載させていただいておりますので、一度全ての目標を読ませていただきます。

聞いていただきまして、最終的にご審議いただければと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

基本目標。

将来都市像を実現するために、まちづくりにおける8つの基本目標と計画を推進するための

目標を定めます。

「基本目標1 だれもが安全に安心して暮らせるまちづくり」

地震や風水害などの様々な災害に対応するため、計画的な浸水対策、火災や救急に対応するための消防・救急救助体制の充実、住民、関係機関、地域と連携した防災体制の強化を図るとともに、防犯・交通安全対策・消費者支援など、市民が安全に安心して暮らせるまちづくりを進めます。

基本目標2にいきます。「だれもが健康で自分らしく ともに暮らせるまちづくり」

住民同士の支え合いを中心とした地域福祉の基盤が充実するとともに、あらゆる人たちが地域の中で、生涯を通じて健康でいきいきと幸せに暮らし続けることができるまちづくりを進めます。

「基本目標3 子どもと子育てにあたたかいまちづくり」

未来を担う子どもたちが健やかに成長できるよう、結婚・妊娠・出産・子育てとライフステージに応じた取り組みを充実し、子どもと子育てにあたたかいまちづくりを進めます。

「基本目標4 活力あふれ にぎわいのあるまちづくり」

関係団体や事業者と連携し、農業・商工業を振興するとともに、企業が進出しやすい環境を整え、地域経済の活性化を図ります。

また、地域の観光資源を最大限活用するとともに、市の魅力を効率的かつ積極的に発信することで、交流・関係人口の拡大を図るとともに、移住・定住を促進し、活力あふれ にぎわいのあるまちづくりを進めます。

6 ページに進みます。

「基本目標5 快適で住み続けたいくなるまちづくり」

まちの魅力が更に向上する土地の活用を推進します。また、社会インフラの適切な整備やバリアフリー化、公共交通の利便性向上を図るとともに、良好な居住環境を提供し、子どもから高齢者まであらゆる世代が、住み続けたいくなるまちづくりを進めます。

「基本目標6 人と自然が共生する環境にやさしいまちづくり」

手賀沼と利根川に囲まれた豊かな自然環境を守り育てるとともに、ごみを減らし、資源を循環・活用していくほか、地球温暖化対策やさまざまなエネルギーの活用に取り組み、人と自然が共生するまちづくりを進めます。

「基本目標7 人と文化を育むまちづくり」

だれもが生涯にわたって学び続けられる環境づくりに取り組むとともに、文化芸術やスポー

ツに親しめる機会や場を提供することで、人と人、人と文化を育むまちづくりを進めます。

「基本目標8 だれもが活躍できる共生社会を目指したまちづくり」

地域に暮らすすべての人が、それぞれの得意とする分野、特性を生かすとともにお互いを認め合い、協力して、だれもが活躍できる共生社会を目指したまちづくりを進めます。

最後となります。

「計画推進のための横断的な取り組み」

まちづくりの基盤を支えるため、市民・団体・事業者・行政による協働を推進するとともに、質の高いサービスをより低いコストで提供し、持続可能なまちづくりを進めます。

以上が、現在庁内でまとめさせていただいている基本目標と横断的な取り組みの案となります。ご審議のほど、お願いいたします。

○藤井会長 どうもありがとうございました。

基本目標ということで、8つの視点を先ほどの土地利用のところと絡めてということで、少し具体化した形の中で方向性を、ただ具体化と言いましても、目標ということですので、枠組を示した中で、これに更に個別の施策がぶら下がってくると、そういった意味でしたと思います。

文言含めまして、何かご質問、ご意見等ございましたら承りたいと思いますが、いかがでしょうか。

では、今マイクが行きます。お待ちください。

○山家委員 山家と申します。

土地利用構想とも同じなんですけれども、将来都市像というのはスローガンみたいなものが並んでいるんですが、何か具体的な施策が出るのかということ、全部が目標というよりも留意点みたいな感じになっていて、現状というのは、過去から見ると我孫子市というのは明らかに住宅地、大都市圏の周辺ベッドタウンで発展してきていて、将来的にもそうそう変わらないかなという部分はあるんですけれども、もしそうであるならば、新たに何か考える必要というのはほぼなくて、土地の利用方法ですから、建物とかというのは、容積率とかそういうのはあるんですけれども、基本的には民間任せです。市がどうこうするわけではないと思うんですが、もしそこで将来都市像ということで我孫子市と我孫子市民が何かやっていくというのであれば、住宅都市としてブランドを保つといたら変ですけれども、空き家になって荒廃しているとか、そういうのを避けるというのもあるでしょうし、一方でどういう、比較的若い世代をターゲットにして住んでもらう一方で、ご多分に漏れず我孫子市も高齢化というのはあるので、高齢化

して介護が必要な親世代と、その息子、娘世代と、更にその孫みたいな形になって、俗人的なところでどういようなまち、どういふうな構成があればいいのかなというところがちょっと抜けているかなという気がしないでもないんです。

幸いにしてというか、我孫子市は割と医療機関とか介護施設が多いので、そういうあたりも踏まえて、そこを優遇するとか、あるいはそういう医療機関、介護機関を維持していくことも含めたような住まい方の部分、そこに目配りや危機対応が欲しいかなという気が私はいたします。

○藤井会長 今、ご意見が出たんですが、順番的に行くと、この議事の中で、6番目に将来都市像、この枠組みの中に書き込んでいるところがあるんですが、将来都市像を受けた形で基本目標といったものが、どういう形で支えられているか、その辺のところをイメージが連続して議論できるかというのがまず1点あるかと思しますので、事務局のほうに順番逆になるんですけども、6番目の将来都市像、こちらを現段階でどういう形で今候補として絞り上げてきているのか。これまでずっとたくさんの案が並んでいて、我孫子に中点を入れるのか入れないのかなど、いろいろな案がたくさん出ていたと思います。

あれだけたくさん並んでいると、もう審議会の中では、なかなか議論まとまらないということで、これは事務局として少し候補として整理してほしいということで依頼し、今回、事務局で3つぐらいに絞り込んできて、更にこういう方向性はどうかという一つの案が出て、そういうものを受けた形で、この基本目標といったものがその受け皿としてきちんと成り立っているかといったところも、皆さんの意見の中で反映させていく必要があるかなと思いますので、事務局よろしゅうございますか、順番ちょっと逆にいたしますが。

では、資料6、27ページ、こちらにつきまして事務局で、ご説明いただきたいと思います。

○事務局 それでは、お手元の資料6、将来都市像候補をごらんください。

将来都市像につきましては、以前会議の場で皆様に案としてずらっと一覧をお見せしたところではあるのですが、今、藤井会長からご説明ありましたとおり、庁内会議そして事務局での協議を経て一つの案として提示しているものです。

まず、資料の1番、庁内ワーキング全体会の中で3つに絞った案を読み上げます。「①世代をつなぐまち 住み続けたいくなる 我・孫・子」「②ずっと住みたい、心やすらぐ水辺のまち あびこ」「③だれもが主役になれるまち、未来へつなぐ笑顔と手賀沼」以上の3つがワーキングの中では上位に上がりました。この3案を受けまして、事務局のほうで、こちら言葉の多少ミックスなどしまして、一つの案としてとして提示しています。「世代をつなぐ心やすらぐ水辺

のまち 我孫子～未来へつなぐ笑顔と手賀沼～」こちらを事務局案として提示させていただきます。

なお、①番に「住み続けたい」というキーワードや②に「ずっと住みたい」このようなキーワードもあるんですが、住み続けるといったものについては、施策の説明のところでは記入していこうと考えております。

2番に検討事項としているんですけども、我孫子の表現。まず1点目が、「我孫子」と漢字にするのか、「あびこ」と平仮名にするのか。それとも漢字にするだけけれども、1文字の間に点を入れるかといった3通りの協議を現在しているところです。なお、この我孫子の間に点を入れるという意図なんですけど、一文字一文字独立させることによって、見る人の側で「あびこ」と読むのか「われ、まご、こ」とも読めるというところで、その辺を狙っての表現となっております。事務局としましては、この囲いの中の一つ提示している文面及び我孫子の表現、こちらの2点について本日ご審議いただければと考えております。

以上です。

○藤井会長 ただいま事務局よりご説明をいただきました。

事務局案として、こちらを先ほどの総ページでいくと、5ページのところの将来都市像といったところの中に組み込みたいという考え方がある。例えば現段階の案でいくと、世代をつなぐ、心やすらぐ水辺のまち、我孫子、副題をつけるか否かというのはあるかと思いますが、そういうものがこの将来都市像の中に入ってきて、基本目標の1から8につながっていく。この基本目標の8つの視点が、内容をつなぐ、心やすらぐ水辺のまち、我孫子といったところにつながるかどうか。こういったことも少しイメージしていただきながら、ご意見をいただくということで、審議することが2つ、どちらのことも構いません。全体につながっていく部分でございますので、ご意見をいただきと思います。

できれば、将来都市像については、今日、方向性を固めていきたいと、まだ文言について修正が必要だということは継続的に検討するというところで考えております。

いかがでございましょうか。

○山下委員 将来都市像の候補の我孫子の話で、今、中黒が入っている話を聞いて、非常に面白いと思いました。要は、私と孫と子どもと3世代というようなことで、世代をつなぐというそういう雰囲気も出ていて、そう言われてみるとこれはおもしろいなというふうに思いました。1点、教えていただきたいんですけども、我孫子は市の名前の由来というのは、どういったところにあるんですか。それもちょっと教えていただいた上で、どういうふうにやったらいい



かなと思ったんですけれども。

○藤井会長 市長が、ホームページを見て、市のことを知らない職員は採用しないと書いていましたので、まず市の方、お答えいただけますでしょうか。

○事務局 諸説ありまして、正確なのは何とも言い難いんですけれども、一つとしては、テレビでも紹介されていた我孫子の由来というのでは、我孫子の手賀沼を中心として栄えていた、力をお持ちになっていた方が我孫子という名字を使っていたらしゃって、江戸よりもっと前ですが、それが現在の市名に至っているというのが、直近で大々的に紹介されているものとなります。

○藤井会長 そういう状況になります。

○事務局 なので、今のお話しとは、ずれてしまう内容となってしまうと思うんですが。

○藤井会長 世代をつなぐというか、漢字のところからイメージされた言葉、ある意味出てきた言葉といったところもあるかもしれませんね。

そのほか、いかがでございましょうか。先ほどのご意見も含めたといった形の中で。

○事務局 1点、追加でもし皆様からご意見をいただければと思っていることがございまして、まず基本目標1と基本目標2をご覧いただきたいんですが、だれもが安全・安心して暮らせるまちづくり、だれもが健康で自分らしく ともに暮らせるまちづくりという、この「暮らす」という用語なんですが、山家委員からもありましたように、これまでベッドタウンとして住宅地の開発を進めてきた我孫子市、そういう住宅地を求めて住みに来る方がいるというところで、「暮らせる」という用語が非常にこれからも出てまいります。

その中で、前回、前々回と「だれもが」と用語は、優しい捉え方をして平仮名で統一しましょうというご議論をいただいて平仮名にしているんですが、「暮らせる」というのも平仮名だと文面が長くなり読みづらいということもあって、事務局案では「暮らせる」は漢字に統一をしているんですが、これは平仮名がいいか、漢字がいいか。現在、策定作業を進めている福祉総合計画においては全て平仮名に統一したという意見もあって、ぜひ庁内会議のほうから、総計審の意見を伺ってほしいというご要望ありましたので、あわせてご意見をいただけると、ありがたいかなと思います。

○藤井会長 「暮らし」とかいう表現のときに平仮名にする。「暮らせる」といったときにも平仮名を使っているんですか。

○事務局 福祉の計画では、全部平仮名ということでした。

○藤井会長 追加での検討事項といったものが増えて、3つの審議が重なってきました。

まずは、将来都市像のほうから話を進めていきたいと思います。今、ご意見としては、中ぼつもあると、世代をつなぐといったところがある意味暗示的に我孫子といったものにつながってきて、ある意味いいですねというご意見ございました。

そのほかは、皆様方、いかがでございましょうか。特にございませぬですか。

私自体は、副題が要るのか要らないのかどっちかなというのが、ちょっと気になるところで、「未来へつなぐ笑顔と手賀沼」、笑顔と手賀沼が一緒になって未来へつなぐという形の表現なんですけれども、どっちかと言ったら、将来のことを考えると、「笑顔へつなぐ」といったほうが、何か未来の我孫子につながっていくイメージが湧いてくるし、ここで、シンボリックな手賀沼ではあっても、手賀沼を将来都市像の中の副題に入れるべきなのかどうか。地元でない人間がこういう言い方をしておりますが、地元の方は手賀沼というのは一番といったところを都市像の中に入れるという、そういう強い思いがあれば、私はあってもいいのかなというふうには思うんですが、その辺含めていかがでございましょうか。

○事務局 用語の意味合いをご説明させていただいてよろしいでしょうか。

○藤井会長 そうですね、どうぞ、事務局。

○事務局 庁内で検討した際に、この用語の意味、こういうイメージでということがございますので、そちらのほうを説明させていただきます。

「世代をつなぐ」というのは、山下委員からもございましたように、3世代をつないでいく「我・孫・子」、この表現が庁内では一番人気でした。先ほど来から言われている小さな子どもからお年寄りまで、3世代をつなぐまちというイメージを持って、世代をつなぐということを入れさせていただいております。具体的には見えないと言われた、介護の視点などは、施策でイメージをさせていくということも含めて、世代という単語を入れさせていただいております。

さらに、「心やすらぐ水辺のまち」。こちらは手賀沼を臨んで田園風景があるまちなみ。小・中学生または高校生、市民の皆さんとの懇談をしていく中では、この手賀沼を中心として田園風景もあり、その隣にある住宅地、これを大事にしてほしいということがございましたので、それをイメージしてつくっております。

サブタイトルですが、当初は入れるか入れないかというところ、非常に悩んだんですが、我孫子市、非常に子ども施策に力を入れているというところがございます。子どもをイメージすると、未来をつなぐ笑顔。また、最近、数値のほうが悪くなってしまい、若干汚くはなってしまうているんですが、以前に比べてきれいになっている手賀沼。これからもきれいにしてほしい

いという願いが皆さんからありましたので、それをサブタイトルのところに入れさせていただきました。

ただ、藤井先生もおっしゃったように、市内でも、未来へつなぐのが、手賀沼と笑顔、子どもというのが何かちょっと違和感があるかなというご意見もございました。

先ほど我孫子の間に点を入れて、我・孫・子というイメージをさせていくのであれば、一番最初の世代というところもなく、そこを未来に変えてもいいのかなというご意見もございました。あとは「世代をつなぐ」と「未来へつなぐ」と、つなぐが2つありますので、そちらのところもご意見がいただけるとありがたいかな。

漢字と平仮名については、市民の方のご意見も聞いたのですが賛否両論で、昨今の市町村合併で、平仮名の市が多くなっている。何でもかんでも平仮名にしていいいのかというご意見と、やはり昔から使っている我孫子の漢字、これは大事にしてほしいというご意見がありました。また、「がそんし」と呼ばれているような読みづらい字でもありますので、逆に親しみがある、平仮名の「あびこ」という方が広がるのではないかというご意見等もございました。これらのご意見を参考にしていただいて、またご意見のほうを頂戴できればと思いますので、よろしくをお願いします。

○藤井会長 皆さん、いかがでございましょう。

今、マイク届きます。お待ちください。

○宮川委員 宮川と申します。

先ほどのご説明で点の入った「我・孫・子」、これのご説明をお聞きしたんですけれども、もし、こういう意味合いで入れるということであれば、どこかにその辺の説明が必要なのかなと。「我・孫・子」というのをもし入れるとするならば、世代をつなぐところに持ってきて、心やすらぐ水辺のまちという形のほうがいいのかなと。我孫子というのは、地名としてこれははっきりと漢字で「我孫子」という形にしたほうが私はいいと思うので、示されている案でいいのではないかと私は思っております。

○藤井会長 そのほか、いかがでございましょうか。

では、手が挙がりましたので、お願いいたします。

○松山委員 最初の「世代をつなぐ」というところで、副題の「未来へつなぐ」の未来も世代のところを持ってきたという話があったんですけれども、私もそれに賛同していて、「未来をつなぐ、心やすらぐ水辺のまち 我孫子」となっている1文が私の中にはしっくり来っていて、副題の手賀沼とあるじゃないですか。手賀沼というところもこの主題のほうに「水辺のまち」

と入っていて、水辺というのと手賀沼というのは同じ意味だから、これも重複してしまうんじゃないかな、だったらどっちかにまとめてしまうほうがいいんじゃないかと。さっき言ったように、「未来をつなぐ 心やすらぐ水辺のまち 我・孫・子」、我孫子も点をつけるというのが私も結構面白かったので、そのとおりでいいんじゃないかななんて思っています。

○藤井会長 いろいろな意見が出てまいりました。

こういう意見が出てくるのは非常にいいことで、まず我孫子というのが地名としてきちんと我孫子として使うべき、これも大事なことです。特にこの文章の中では世代をつなぐという世代間といったものを「我・孫・子」という形であらわすのであれば、そこをある意味を特記する形でぽつを入れてイメージさせる。これも一つの理由です。ただ、世代をつなぐというふうに書いてあるのであれば、あえてぽつを入れなくても我孫子という形の中で読み切れるだろうということも一つかもしれません。

もう一つは、中ぽつを入れることによって、読み手によって、「がそんし」と読むか、それは別ですが、「われ・まご・こ」という読み方をするか、我と孫と子の間に中ぽつがあることで、ある意味世代をつなぐというイメージはそこに中ぽつに込めたんだということで、そういう形の中から未来といったものをイメージさせるということで、「未来へつなぐ 心やすらぐ水辺のまち」というその見方もあるかなと。どれもそれぞれよさもあるかとは思いますが。一つに絞れという難しさがあります。

ここで投票するまでは現段階では求めているんですか。その辺はどうですか。

○事務局 もしこの我孫子のこの表記イメージとして皆さんどれがいいかなというのは聞いていただけるとありがたいです。

○白土委員 ちょっと1ついいですか。

○藤井会長 はい、どうぞ。

○白土委員 千葉銀行の白土でございます。

我孫子の表記なんですけれども、この中黒を入れて、その上に平仮名でルビを振るというのはだめなんですか、あびこと。

○事務局 だめということはありません。

○白土委員 その方がいいかなと。要するに、我・孫・子ということをイメージさせて、読み方はきちんと「あびこ」ということを読ませる。ルビですから小さくなるんですけれども、それでどうかなと思います。

○藤井会長 ルビとして、「われ、まご、こ」と書いたルビもあったんですね。あれは、ちょ

っと何か作為が凝り過ぎていて嫌だなという話があって、今、「我・孫・子」をイメージさせる漢字の中でも正しく「我孫子」を理解してもらおうという意味の「あびこ」のルビを。これも一つの案として出てまいりました。こちらから見てまいりますと、縦に首を振る方が結構いらっしやるかなという感じがするんですが、一つの方向性を出していきたいというところで、やはり、地名としての我孫子といった読み方、これもきちんと読み手に理解してもらおう。かつ世代をつなぐといったイメージをきちんとこの構想の中に埋め込みたいと、そういうことを考えると、我孫子という漢字、この3文字の中に中黒を入れて、かつあびこのルビを振るといったことが一つの方向性としてわかりやすいかなというふうに、私自身もちょっと感じるころがございます。まずはそういう方向性を皆様方ご了承いただけるかどうかということで、絞り込みをしたいと思いますが、皆さんいかがでございましょうか。よろしゅうございますか。意見は意見として承った中でということでございます。

それでは、今事務局から我孫子の対応ということでございました。我・孫・子の中ぽつを入れる形にこのルビを、そういった形を構想の中の将来像のキーワードにすると。であれば、今度は、その四角の枠の中で、我・孫・子といったもののイメージがこの漢字の中で、できるようになってまいりましたので、「世代をつなぐ」というキーワード、これを今ご提案ございました。未来といった更にその先、こういったところを世代というと、今住まわれている3世代とかそういったところをイメージしますが、将来10年、20年、もっと先といったところの我孫子をイメージしてまちづくりをするといったところでは、「未来へつなぐ」といったキーワード。こちらのほうが先を見る形かなといったようなご意見もございましたが、そして更にこの副題のところとかなりかぶる部分が確かにあるというところがございますので、一つのまとめ方として、み上げますが、「未来へつなぐ 心やすらぐ水辺のまち 我・孫・子」という形でルビを振る漢字、中ぽつという形でこの将来都市像を一つにまとめていきたいと思いますが、皆様いかがでございましょうか。よろしゅうございますか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○藤井会長 それでは、事務局、今回の審議の中で今のフルネームでという形で意見をまとめさせていただいたということで進めていただければと思います。

○事務局 はい。ありがとうございます。

○藤井会長 それでは、まとめた意見に基づいてということでございますが、将来都市像として、基本目標の中で、私たちが未来へつなぐ思いといったものが、この目標設定にきちんとあっているかといったところの整合性の話しが出てまいります。

さらに「暮らせる」というキーワード、住む、働く、憩う、そして通うといったような都市としての必要な4つの項目の中で、暮らし方、住まい方、働き方を両方合わせた暮らしといったような側面を漢字なのか、あるいは平仮名にして市としての統一感を持たせるのかといったところでございますが、これはいかがでございますか。これが平仮名になってくると、基本目標1であれば、「安心して暮らせる」という「く」が平仮名になったりします。2番目、「ともに暮らせる」もこれで平仮名、読み手の印象と暮らしといったもののそれをそのままストレートに意識していただく、そういったところの差なのかなと思いますが、特にご意見ございませんか。

○山下委員 私は漢字がいいと思います。「ともにらせる」と。「ともに」もひらがなで書いているので、余り平仮名が続くのも読みづらくなってしまったり、ぱっと「暮らし」と漢字が入ったほうが見たときにわかりやすいので、漢字がいいんじゃないかというふうに直感的に思いました。以上です。

○藤井会長 ありがとうございます。

そのほかに、直感的で結構でございますが、どうぞ。

○池田委員 池田です。

私も今ちょっと平仮名で書いていて、読んでいますけれども、単純にちょっと読みづらくなるかなというのが第一印象なので、山下委員と同意見で漢字のほうがいいのではないかと思います。

○藤井会長 ありがとうございます。

いや、平仮名のほうがいいよなんていうご意見の方いらっしゃいますか。そう言われると、なかなか手を挙げにくいかもしれませんが、漢字というのはピンポイントでぽんと立ち上がるのは漢字のイメージこれ強いです。特に平仮名が連続してくるところですので、我孫子市としてどういう使い方をされているか。市として本来は統一型といったものももちろんありなんだと思いますが、総計審の中で、先ほどもご意見で出ていました住宅都市として未来があると、その中で住民の方たちの暮らしそのものを基盤として、まちづくりが展開しないといけない。そのときの暮らしのイメージといったものをきちんと位置づけをするといったところでは、この漢字のポイントのほうがイメージがつくだらうということで、特段、反対意見はございませんでしたので、総計審のこの審議の中では「暮らし」というのを漢字の方向性でまとめさせていただくということよろしゅうございますでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、基本目標の1から8でございます。先ほど出ていたご質問にもございました具体的なイメージと、きちんとそれが盛り込まれているかという整合性の話でございますが、これがなかなか難しいところがあるんですが、基本目標に基づいて具体的な施策が将来的にどういうことにつながってきているか、これをなかなかあわせもって見ないと、その基本目標そのものの方向性がいいかどうかという最終的な検証はなかなかしにくい。ただし、市としての方向性を何を大事にするかといったところのプライオリティといいますか、1番から8番までと順序づけをしていますので、最後の8番がどうでもいいというレベルではないんですが、市として一番何を大事にするかといったところが1、2、3という形の順にあらわれてくるということで、その順番構成も含めて、この基本目標の枠組という捉え方をして、目標設定に見誤りがないかといったところを一つご意見いただきたいというふうに思いました。いかがでございますでしょうか。

こちらからマイク回しますから、大丈夫ですよ。

○田中委員 田中です。

基本目標2のところなんですけれども、「だれもが健康で自分らしく」というところで、「だれもが」というところなんですけれども、皆さんが健康を望んでいて、最後まで元気で、特に予防というところの軸で考えると、健康でいたいよね最後まで、ぴんぴんころりでいきたいねというのがあるかと思うんですけれども、「だれもが自分らしく」というのはいいんですけども、全員が健康で理想はいいんですけども、その文言の中に生涯を通じて健康で生き生きと幸せに暮らし続けることができるという、健康であっても、病気であっても、年寄りであっても、子どもであっても、弱い人でも強い人でも誰でもがという、「だれでもが」はそこを含んでいると思うんです。

だから、「生涯を通じて健康でいきいきと幸せに」というところが何か、私どうしても高齢者の方々と毎日悪戦苦闘しているものですから、俺だって、私だって、40代、50代、60代のときはぴんぴんだったよ、でもちょっとしたことでこういうふうになってしまった、ふがない人生になっていくのかな自分は、という言葉が結構聞くことが多いので、どういう状態になっても我孫子では生涯を通じて生き生きと元気というか、生き生きと幸せに暮らせるよという、何か平等性というか、何かそういうことも含んだ文章にさせていただけるとありがたいかなというふうに思いました。

○藤井会長 今、要望がありましたが、事務局、何かございますか。

○事務局 市の打ち出している施策というところで、庁内の中ではこの単語は外せないかなと

いうところに出てきているのですが、今市が取り組んでいる施策、また国のほうで取り組んでいる施策というところでは、いつまでも健康でというところが非常に謳われていますので、この健康という用語が出てきたんですが、確かに委員がおっしゃっているように、突然事故で健康でなくなった方でも、地域の中で皆さんが過ごせるという視点があるということを考えると、分科会のほう議論した中でも皆さん同様の視点はございました。

もう一つの分科会からも、そういう視点は福祉として非常に大事だよという意見は出てまいりましたので、特に「健康で」ということがなくても、その地域福祉の基盤という用語が入っていたり、地域の中で生涯を通じて、更に生き生きと暮らせるというところが入っているので、健康である方もない方も、皆さん自分の生きたい幸せな暮らしをできるということでは、なくてもいけるかなというふうには思います。

その健康という施策をどこで見せるのかといったときには、基本目標の下にそれぞれの施策、高齢者福祉であったり、障害福祉、地域福祉、または健康づくりというのが出てまいりますので、その中で謳っていくことはできるかなというふうには思っておりますので、もう一度持ち帰らせていただいて、この基本目標からは外していけるのか再検討したいと思います。

○藤井会長 それでは、そのほか、いかがでございましょう。

ほかは特によろしゅうございますか。

○山下委員 地域振興事務所、山下なんですけれども、基本目標1のところの、一番下から2行目のところで「防犯・交通安全対策・消費者支援など」ということで、ワークシートでもちょっと意見出させていただいたんですけれども、安全・安心という言葉の使い方の中で、消費者支援というのがちょっと引っかかかっていて、悪徳業者から守るとかいった場合には、消費者保護という言葉はよく使うんですけれども、消費者支援という言葉をあえて使っているというのは、どういう考え方で使っているのかなとちょっと気になって、説明していただければと思います。

○藤井会長 お願いします。

○事務局 確かにご意見いただいて、消費者保護ということも議論をさせていただきました。おっしゃるように、安全・安心というところでいくと、今消費者のトラブルが非常に多いので、保護というところで謳えないかという具体的な議論をしてはきたんですけれども、今、市のほうの取り組みとしては、消費者の方たちと一緒に手賀沼の浄化を目指した石けん普及活動であったり、そのほかの取り組みをしているということがあるので、消費者保護だけではなかなか一つにくくれないということもあるので、この消費者支援ということにさせていただきました。



ほかの委員さんからも確かにこの消費者支援のところについては、異質でわかりづらいというご意見もございましたので、いま一度保護という用語も含めて、ご意見をもとにもう一度持ち帰らせていただきたいと思います。

○藤井会長 事務局でも検討した案件であると、ただ、その保護の意味といったところの幅ですとか、特にまた安全と安心というキーワードと、それがどう連動していくのかというところ、その意味合いを「など」と一くくりにしてしまっていていかどうかというところもありますけれども、何か皆様方でお気づきの点があれば、ご意見いただければと思いますが。

そう言いましてもなかなか難しいですね。特に安全とか安心といったときに、主体が誰かによって、安全と安心の関わり合いも変わってくる。消費者というと、人に対する安全と安心という言い方をどう捉えるか。守ってあげるという言い方と、消費者の人たちが暮らしをする上でどう安心づけられるような仕組みをつくるのかという話しでは大分変わってくるので。それこそ、基本目標1の下にぶら下がる具体的な方向性のキーワード、これとの関係性で合わせて見ないと、なかなか読み切れない内容なんですね。

ですので、恐らく事務局も支援という、少し幅の広い形の中で捉えていたといったときに、消費者を守るといった意味合いを重視するのか、あるいは暮らす上での消費者がどういった位置づけの中で暮らしが担保されるのかといったところ、この辺のところを施策メニューと連動して、意味づけはどちらが優先して捉えられそうかといったところを、一度キーワードと横並びした形の中で議論していかないと、なかなかご意見がいただけないところかなというふうに思いますので、少しこの件に関しましては、次のプロセスの中で、また、キーワード上がった段階で、ご議論もう一回いただくという形にさせていただきたいと思いますが、よろしゅうございますか。

そのほかいかがでございますか。

マイクをお願いいたします。

○高橋委員 川村学園女子大学の高橋と申します。よろしくをお願いいたします。

基本目標の4の地域の観光資源とあるんですけども、具体的にはどこの部分を指名されているのか、教えていただきたいと思います。お願いいたします。

○藤井会長 お願いいたします。

○事務局 地域によっていろいろあると思うんですが、幾かご紹介をさせていただきますと、先ほど土地利用のところに記載がございました手賀沼の親水広場や水の館など、手賀沼の周辺にあります市の観光施設であったり、布佐のほうにまいりますと、地域の伝統文化としてのお

祭りであったりと。その地域によって違いはしますけれども、イメージとしては、そういうものをイメージしております。

○高橋委員 ありがとうございます。

実は、11月に旧武者小路実篤邸の特別公開が2日間ございまして、そこに私どもゼミの学生と一緒に関わったんですけれども、2日間とも大雨だったんです。そちらはいわゆる博物館とか、そういったところではありませんので、見るべきところというのがお庭であったり、住まいであったり。完全にそのままの状態が残っているわけではないんですけれども、武者小路実篤のファンがとても多いというのを実感しまして、名古屋であったり、静岡などからいらしている方もいらっしゃったんです。それも抽せんで限定2日間440名ということで、大雨の中、ほとんど欠席もなくいらしたということが、地元の方が余り感じていなくてもとてもすばらしい資源だと思ったんです。

いろいろご事情があって年間2日間だけの公開ではあったと思うんですけれども、翌週の日立庭園の公開というのにもボランティアで参加させていただいたんですけれども、年間2,000人がいらっしゃると。今年はちょっと寒かったのと、紅葉が余り進んでいなかったのがあったので、1,000人ちょっとなんですけれども、そこも市内の方ではなく、他県であるとか、遠方からの方がいらっしゃっているというのを目の当たりにしました。ですので、にぎわいのあるまちづくりというのを、市の方たちだけのにぎわいではなく、市外の方たちを含めてのにぎわいのあるまちづくりということであれば、そういった資源をもっと活用はできないんだろうかというのを、実際に感じたということがあります。

以上です。

○藤井会長 民の観光資源、そういう資源を活用する、非常にこれは大事なことです。施策に、交流人口とか関係人口というキーワードがございます。このにぎわいをつくるときに、地元を中心のにぎわいを持つのか、あるいは関係人口として他の人たちを巻き込んだ仕組みにするのか、あるいは交流という形の中で人の呼び込み方を変えた仕組みとしてのイベントベースでいくのか、それぞれどういう人を呼ぶかによって、まちづくりのにぎわいと構成は変わるわけですね。そういった中では、先ほど冒頭のほうでも我孫子という、白樺派の云々という、そういうものしか湧いてこない。でも湧いてこないといったそのものが逆に言うと非常に大きな資源になっているということなので、そういったような活用の仕方も含めた行政型の枠組の投げかけではなくて、もっと民を含めた活用の幅を広げましょうといった施策展開に次のプロセス、ぜひ生かせるようなことのイメージを事務局で持っていただけるといいかなと思うんです。

そのほか、いかがでございましょうか。

よろしゅうございますか。基本目標は確定するつもりは毛頭ございませんので、今、ご議論も出てまいりましたので、少しまた継続で事務局に調べていただきながら、また枠組を皆様方と再度検討してまいりたいと思います。

それでは、目標としては12時に終わりたいという思いを持っております。市民アンケートと、最後、人口というところございますので、まずは市民アンケートの調査報告書ということで、こちらにつきまして事務局よりご説明いただきたいと思います。

お願いいたします。

○事務局 資料の4、7ページをご覧ください。

前回の総合計画審議会におきまして、市民アンケートの結果の速報版ということで、単純推計した数値をお示しさせていただきました。

今回は、地区別や年代別のクロス集計が進んでまいりましたので、その調査報告書の抜粋ということで載せさせていただいております。

資料の9ページをご覧ください。

調査報告書の中に、ページの番号2つ入っていますけれども、説明の中では、下のページ数、文字が大きいほうで説明を進めたいと思います。

まず、今回の市民アンケート調査、調査地域としては我孫子市全域ということで、市内在住の18歳以上の男女5,000名を無作為抽出してアンケートを発送しております。調査期間につきましては、9月13日に発送しまして、9月25日を期限とさせていただきました。ただ、期限を過ぎても届いたものについては集計の中に入れておりますので、前回、速報版でお見せした数値に期限後に来たものを加えている分、少し数値が変わっているところがございます。回収状況としましては、配布数5,000通のうち有効回収数1,413通、このうち住所不定等で戻ってきた無効票が15通で、有効回収率が28.3%となっております。

11ページ目をご覧ください。

回答者の属性としまして、こちらは前回も少しご説明申し上げているので、割愛しながらご説明したいと思いますけれども、回答者の一番多かった年代が45歳から49歳、続いて40歳から44歳ということで、40代の方が非常に多かったという結果となっております。

続きまして、13ページをご覧ください。回答者のお住いの地区ですけれども、主に我孫子地区、次に天王台地区と人口に応じた回答数になっています。

続きまして、少し飛びます。16ページをご覧ください。

地域での生活のしやすさということで、表の左からグラフの左から生活しやすい、どちらかといえば生活しやすい、どちらとも言えない、どちらかといえば生活しにくい、生活しにくいとなっています。なお、我孫子地区だけなんですけれども、無回答という方が0.2%いたという結果となっております。

結果を見ますと、おおむね生活しやすい、どちらかといえば生活しやすいという方が半数以上、特に西側の我孫子地区、天王台地区は80%以上となっております。だんだん東に行くにつれて、生活しやすい、どちらかといえば生活しやすいという方が減っていつている傾向が見てとれます。

続きまして、17ページですけれども、生活しやすい、どちらかといえば生活しやすいと答えた方にその理由を聞いております。

こちら、全体としましては、自然環境が良いというのが一番の理由となっております。次に、買い物に便利、3番目に交通の便が良いとなっております。

地区別に見ますと、我孫子地区では買い物に便利というのが一番の理由となって、次に交通の便が良い、3番目が自然環境が良いとなっております。そのほか4地区につきまして、1番目に自然環境が良いというのが理由となっております。

18ページをご覧ください。今度は、生活しにくい、どちらかといえば生活しにくいと回答した方の理由となっております。

全体としましては、交通の便が悪いが一番目にきております。2番目に買い物に不便、3番目に医療機関が不足しているというものがきております。

こちら地区別に見ますと、我孫子地区が少し不思議な結果となっているんですけれども、生活しやすいという理由の1番目に買い物に便利、2番目に交通の便が良いとがきていたんですけれども、生活しにくいという理由にも、買い物に不便というのが1番目、交通の便が悪いというのが2番目にきているというところまでして、我孫子地区は広いので、駅を挟んで北と南では違うのかなと。また、年配の方のご意見なんか聞いていますと、バス路線の利便性、バス停まで遠いといったご意見もありましたので、少し年代別に分析していく必要もあるのかなと考えております。

また、東側の湖北地区、新木地区、布佐地区にいきますと、生活しにくいという理由の1番目に交通の便が悪い、2番目には買い物しにくいという理由が続きます。

次に、19ページをご覧ください。

こちらは、重要と考える施策についての数値と満足度について表にまとめたものです。右に

行けば行くほど満足度が高いと考えられている施策です。上に行けば行くほど重要度が高いと考えている施策となっております。

こちらにつきましては、領域Ⅰ、左上の部分が満足度が低く、重要度が高いと考えられる施策となっております。特にこれから力を入れて取り組んでいく必要があると考える施策となっております。当然、全ての施策が満足度が高くなったらいいと思うんですけども、優先順位ということ考えたときに、この領域Ⅰの部分が右側に満足度が高くなっていくように進めていく必要があるのではないかとこのものです。

続きまして、21ページをご覧ください。

今後、力を入れるべき取り組みについてということで、台風15号の直後にアンケート発送しておりまして、15号は千葉県ではかなり甚大な被害があったということで、我孫子ではそれほど大きな被害はございませんでしたけれども、その結果を反映したような、防災・減災対策の推進というものが第1位にきております。ただ、年代別に見ますと、29歳以下、30代の方につきましては子育てへの支援というものがやはり力を入れるべき取り組みということで1番にきております。

続きまして、少し似たような設問になりますが、23ページをご覧ください。

将来我孫子市がどのようなまちになってほしいと思いますかという設問につきましては、どの年齢どの地区におきましても、災害や犯罪の少ない安全・安心に暮らせるまちというものが1番目にきております。

年代別に見ますと、2番目以降は少しそれぞれの傾向が見てとれるのかなというところがございます。

今後、もう少し分析を進めて、基本計画等を作成に参考にしていきたいと考えております。

アンケートの説明は以上になります。

○藤井会長 どうもありがとうございます。

アンケートという形でその集計の結果をご説明いただきました。こちらにつきましては、この意見等につきまして更に精査する中で、今後の四次の計画づくりといったところに組み込んでいくという考え方になってまいります。現段階で、そのアンケート調査結果の中にご質問等ございましたら承りたいと思いますが、いかがでございましょうか。

現段階ではこういう状況が理解できたということでよろしゅうございますか。

ありがとうございます。

続きまして、5番目でございます。A3の横、25ページの資料を出していただきまして、将

来の目標人口ということで事務局よりご説明いただきたいと思います。

○事務局 今、会長からお話しありました25ページ、資料の5-1、裏面が5-2となっております。まず5-1からご説明いたします。

我孫子市の人口推計ですけれども、一番上のH30、社人研推計というものが国の外郭機関であります国立社会保障人口問題研究所で出している我孫子市における2065年までの人口の推計値となっております。こちらにつきまして2020年には13万389人、15年後の2035年には11万8,498人と約1万人ほど人口が減るといふ推計が出されております。

我孫子市では、この社人研の推計を基に、幾つか仮定値を変更して独自に推計を行いました。

まず、一つ仮定値として出したものが合計特殊出生率でございます、我孫子市の過去5年で一番高かった数値として、合計特殊出生率1.31というもの、過去5年の平均値として1.25、更に直近の平成29年の数値として1.2というものを仮定値として加えております。それぞれそのまま合計特殊出生率だけ変えて社人研の推計に照らし合わせたものが、単純推計と書いてあるものです。

その下のところにつきましては、単純推計に対して25歳から34歳までが今転出超過傾向にございますけれども、その割合が2割低減されると仮定したのとなっております。

さらにその下、それぞれの下部分です、今申し上げた2割低減というところが、更人口増加傾向がなくなると、社会移動が均衡になるということを想定した数値となっております。

最後の案4、案8、案12につきましては、25歳から34歳までの社会移動が均衡し、今超過傾向にございます10歳未満と60歳以上の人口が今までよりもプラス10%増加すると仮定した数値となっております。

合計特殊出生率1.2というのが今現状に最も近い数値となっておりますので、ここの単純推計、案9がこのまま現状続けばどうなっていくかという数値になっています。こちらが令和2年の1月1日の推計となりますけれども、13万194人となっております。ちなみに、令和元年度12月1日現在の外国人を除いた日本人のみの総人口が13万170人となっておりますので、これに近い数字となっているのかなと思います。

説明が前後してしまいますけれども、これは日本人のみの推計となっておりまして、外国人につきましてはここ数年、大体2,000人前後で推移をしておりますが、定住が進んでおらず、入れ替わりがあるという中で、今後もそれは変わらないだろうという推計をしております、総人口としては、日本人の推計に2,000人を足したものとして考えていきたいとしております。

話を戻しまして、このままの状況でいった場合、2035年には11万7,887人、約1万2,000人以

上、人口が減ってくるという推計が出されております。ただ、市としましては、今皆さんにいろいろご意見いただきながら、子育て施策に力を入れていったり、転入を増やして転出を抑えるための施策というのをこれから展開していくということで、案の6と7、合計特殊出生率につきましては少し回復をした1.25、また、25歳から34歳までの転出超過が2割減もしくは均衡となるような施策を展開をしていくということで、裏面をご覧いただきたいと思っております。

合計特殊出生率1.25で、25歳から34歳までの転出超過が2割軽減されると仮定して2020年1月1日には13万479人、先ほどご説明しました2025年には11万9,119人、計画の終了年度であります令和15年には12万973人という数値が出ております。さらに、合計特殊出生率1.25に対して25歳から34歳までの社会移動、均衡した場合の推計ですと令和2年の1月1日には13万964人、こちらもう既に減っているのです、推計値でしかないんですけども、先ほどの数値とあわせて2035年には12万1,597人、計画の終了年度である令和15年には12万3,165人、単純推計に比べると人口の減り具合が大分抑えられて、8,000人ほどになってくるのかなというところです。

市としましては、かなり厳しい状況であると考えているのですけれども、合計特殊出生率につきましては1.25、25歳から35歳までの転出超過につきましては今よりも2割低減したいと考えておまして、そうなりますと計画終了年度の令和15年には12万973人、これに外国人2,000人を加えまして人口が12万2,973人という推計を基に将来目標人口としては12万3,000人ということに基づき、皆さんのご意見を伺いたいと考えております。

少しわかりにくい説明で申し訳ございませんが、以上となります。よろしくお願ひいたします。

○藤井会長 ありがとうございます。

この人口推計はなかなか難かしゅうございますね。どこの時点で、あるいはどういう条件を入れるかによってがらっと変わってくると。

その中で、一つ何もしなければという形の中で見たときの数字とそれから総合計画ということですから、人口を増やすためには子ども世代、これを増やす。それから、暮らしといったところでは働き手、こちらが住まうという行動、こちらを増やしていかないといけない。産み育てて育むような環境をどうやってつくり上げるか。それによって、ある意味人口を維持できていく歯どめとなってくるところに効くだろうという、効いてほしいという政策として展開すると。

そこの一つの目安として今、出生率1.20、これを1.25という形で子育て環境の整備を大きな視点としてとらえているので、上昇傾向で1.25というふうにさせてもらう。さらにということ

で、転出といったものを抑制する仕組み、これを計画施策に入れることで将来目標12年目には12万3,000人という一つの数字を出したということでございます。こういった考え方、あるいは人口減少の今の全体の他都市を含めた動き方から見て、こういった考え方でよろしいかどうか。

基本的には、この目標数値に基づいた形で具体的にいろいろな施策展開をこれから考えていかななくてはならないということになりますので、いやもっと人口がいるはずだとか、もっと減るはずだと、都市のつくり方によって大分変わってまいります。そういったことで、ある意味妥当性のある数字として皆さん方がお感じになれるかどうか、その辺のところが大変な感覚でございますので、何かご質問、ご意見等があれば承りたいと思いますが、いかがでございますでしょうか。

○宮川委員 私もかつて現職のころ、厚生省まで行って、この統計手法について聞いたことがあったんです。9年近く前、都心部の区に勤めていまして、ちょうど転入人口が一時は27万人、私に対応していた頃は15万人を切るという、非常に人口が少なくなって、当時はバブルの頃で地上げが横行していたんです。都心部からどんどん人口が減っていった。土地も高くなっていく。そういう時代だったので、学校も統廃合、都心で一番古かった小学校も廃校せざるを得なかった。そういう状況があった中で、どうやって定住人口を確保していくか。その白書もつくったんですけれども、当時の社会の流れからすると手の施しようがなかったというのが実情だったんです。

じゃ、今現在どうなっているかというのと、もう倍以上の人口になっているんです。その原因というのは、土地の高度利用なんです。高層マンションができて、そこに若い人たちが利便性が高いんで、どんどん入ってきているんです。

我孫子を考えた場合に、一番利便性の高いところは我孫子駅周辺なんです。未だにこの我孫子駅の周辺には老夫婦で広い平家建てに住んでいる人が結構見受けられるでしょ。公共投資がこれだけなされている我孫子周辺の利便性の高いところに、こういう土地利用でいいのとかどうか。先ほどの土地利用の基本構想にもかかわってくるんですけれども、そういう高度利用していかないと、人口回復はまず難しいんじゃないかと私は思っているんです。

そのために市がやるべきことは何なのか。例えば社会増で人口を増やしていかないと、これから亡くなったり、新たに生まれるというのは、これはもう限られた数値になってくると思うんです。今の傾向でこの統計手法した場合には、極端な話、厚生労働省の担当者の人は将来人口ゼロになりますよと。私も衝撃を受けたんですけれども、統計というのはそういうものなん



ですよね。現時点を前提として、低下傾向でどんどん行けば、いずれか人口はいなくなってしまうんです。そこに統計上の考え方の難しいところがあるということを教わったんですけれども、手を打つという意味で言えば、私は、我孫子駅だけではなくて、土地の高度利用をしていかないと、自然環境も保てないし人口も保てない。あるいは新しく生まれてくる人たち、これももう限定的になってくるんだろうと、こんな感じで思っているんです。

以上、意見ということで申し上げました。

○藤井会長 それでは、続きまして、お願いいたします。

○湯下委員 私が言う意見よりもずっと高度な話になって、言いづらくなってしまいましたけれども、気になるのは、合計特殊出生率を1.25に定めたとしたときに、将来人口12万3,000人、数字的にはあるかもしれないですけれども、現実味というか可能性はかなり低いように感じるんです。現状1.2ということですから、東葛地域で考えてみれば、まだ最低レベルではないのかなとは思いますが、そこら辺の保障というのはないので、危機的な部分をどう捉えるかということになると思うんですけれども、そこをまず1.25でいいのかという話。

それと、もう一つ25ページの転入転出について、どう行政側で対応していこうかという部分ですが、転出を抑えるための目玉になる施設の整備、これはとてもいいと思うんですが、括弧内にスケボーだとか自転車の施設というのは、例えばスケートボードで遊べる若者の集まる場所、バスケットのゴールを設置するというのは、もう10年以上前の発想なので、同じような対応はどうかかなと。そこはもう一工夫必要かなと思います。

○藤井会長 まず1点目、いかがでしょう。

そちらの意見ですか、1.25といったところはどう担保されそうかという。

○事務局 まず、1.25については担保されるのかと聞かれてしまうと、なかなか難しいところではあるかと思えます。しかし、今実際に保育園の待機児童ゼロを初め、子育て施策にかなり力を入れていると。最初の総計審のときにも合計特殊出生率は低いけれども、子どもの数はそれほど減っていないというところを分析していくと、確かに保育園に入りたいので、我孫子を目指して来ている方たちがいる。さらに、その裏づけとして、我々のほうで子どもの施設等に行き、保護者の方にお話を伺うと、安心して保育園に預けて働ける環境、更には働くだけではなく、会社で産前産後休暇をとるのがやっとで、育児休暇までとって女性が男性と同じように働くのは厳しい。待機児童ゼロと一言で言ってもそれ以上の付加価値があるんだよというお話も聞いている中では、やはり待機児童ゼロを続けていくということでは、子どもの人口を増やしていくという施策につながっているというふうに感じています。

今日、お話しにも出ましたが、我孫子を出ていく子たち、この子たちをいかに呼び戻すか。確かに、高校生とお話をした際にも、近郊だから柏の高校に通っている方たちが非常に多いんですね。そうすると、すぐ隣だけれども、我孫子って何、我孫子ってどこと自分たちもそれをうまく伝えることがまだまだできていない。だからこそ、ぜひ小学生、中学生のうちから我孫子のよいところを更に勉強していただいて、高校、大学になると市外へ出る方たちもたくさんいるので、その方たちが我孫子の良さを伝えていく。こういう取り組みを教育の中でしてほしいというご意見もあります。

実際に、年配の方からは、子どもが都内へ行ってしまっただけで、向こうで働くとなかなかこっちは戻って来てくれないんだよねというご意見もありますが、その一方では、介護施設等が充足されてきて、親と一緒に住むというときには、我孫子に戻って来る。また、親や親戚が待機児童、我孫子だったらないよと言って呼びかけをして、我孫子に転入してくるという方たちもいらっしゃいますので、単純に合計特殊出生率だけで見ると、1.25というのは非常に難しい数字かもしれないですが、子育てをしてくれる方たちが我孫子に来て、子どもを産んでいただけることにつながっていく施策をして、人口減少を留めていきたいというところがありますので、1.2と今、一番低い状態ではありますが、さまざまな子育て施策をして押し上げていくことは必要であろうと思っておりますので、厳しいとは思いますが1.25を目指していきたいというところではあります。

2点目については、スケボーと自転車は市内で検討した際に出た意見ではあったんですが、確かに古いと言えば古いです。10年前、私も公園緑地課にいて、マウンテンバイクの施設やバスケットゴール等整備しており、今は、そういう要望もないのかなと感じるところもあるんですが、都内のほうに行きますと、駅前にカフェを併設したような公園を整備したり、自転車等ができる若い人たちがいられる場所を整備したり、その地区によって、いろいろ整備の手法が変わってきているので、これを参考に我孫子としても、もう少し若い方たちが集まる場所を整備できたらということで挙げさせていただきました。今日、大学生の方たちがいらっしゃるので、ぜひこういうのがあれば若い子たちが来るような目玉の施設ができるんじゃないかというご意見をいただけると、我々のほうも助かるかなというところなんです。

○藤井会長 まず、1.2と1.25といったところなんです。大体それでどれぐらい違うかということ、目標値で500人から600人ぐらい、これがざっくり感で言うと、下限にいつてしまうと12万2,500人ぐらい、それを目標設定にすると。そういったところを今の子育て世代の状況からすると、期待値をもって1.25にしたいというのが事務局の方向性というところなんです。それが担保

されるかというとなかなかしんどいという、その現状。

それから、スケボー等に関しては、競技ができるぐらいの立派なもので目玉になってくれな  
いと、ということだと思いますので、その辺はこれからも計画づくり中でいろいろな声が上が  
ってくるかと思imasuので、確かにこういうものもありそうだと行ったところは、次回ぐらい  
の会議の中でも、いろいろ発言をしていただけるとありがたいと思います。

この1.25、1.20難しいところではございますが、そのほかに意見はいかがでしょうか。

○上村委員 上村です。ありがとうございました。

今も見て、我孫子市とすると、出生率を約1.25ぐらいまで上げなければだめだというお気持  
ちなり、25歳から34歳の転出を減らすんだとなってくると、先ほどの基本目標は1から8まで  
の目標、ある程度優先順位つけているとあったんだけど、そうすると、本当に2、3、4  
のところの順番、これでいいのか悪いのかというところは真剣に考えたほうがいいんじゃない  
かという気がするんです。

というのは、もちろん、「だれもが健康で自分らしく」というのは優先順位高くしなければ  
いけないとは思いますが、我孫子市とすれば、子どもを増やしていかなければいけな  
いし、もっと活力あふれる、もっと人が来るような形にしなければいけないとなってくると、  
3、4が上にきて、4番目に、ともにだれもが健康になるとかというぐらいの発想の転換しな  
いと、何かそういった目標なんてできないのかなという気がしたんで、これはあくまで意見で  
す。

○藤井会長 ありがとうございます。

先ほどもプライオリティというお話をしたときに、そういったところとが関係してくると思  
いますので、ぜひこういった話は次回以降も深めていきたいと思imasu。

どうでしょう、現段階で、一つ事務局から1.25といった方向性を打ち出して12万3,000人  
という数字が一つ出ました。これが本当に具体的な施策としてその後、生きるのかというのは、  
また今後の具体的なものとあわせて考えていかないといけない。

それから、それを達成させるためにはということで、計画づくりの重要なところをどこにす  
るのかといったような議論も、これから必要になってくるかと思imasuので、まずは今日、第  
1回目、数値として一つの方向性が出てまいりましたので、これをイメージしていただいて、  
今後妥当な範囲として落ちつくのかどうか、これまた各委員の皆さんのご意見をいただきなが  
ら、絞り込みをしていきたいと思imasuので、現段階ではそういう形の方向性をご確認いた  
だくということで、この審議は閉じたいと思imasuが、よろしゅうござimasuか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○藤井会長 ありがとうございます。

大分時間過ぎてしまいましたが、議題としては以上でございます。

その他として事務局、何かございますでしょうか。

○事務局 次回の開催の予定と、今後の審議の内容について、お願いがございます。

まず次回が2月29日、同じ場所で予定をしておりますが、少し細かい内容のほうをご提示するようなイメージをしております。今日、基本目標の8つの柱と一つを出しましたが、その下にぶら下がっている施策、こちらの文面のほうをできるだけ完成版に近づけていきたいという目標を持っております。今日いただいたご意見の中では、そちらに対するご意見のほうが非常に多かったと思いますので、2月までにメールや文書等でやりとりをさせていただいて、前回と同じようにご意見をいただきながら、庁内で議論を深めて、更にご提示をしたいと考えております。

今年度は2月29日を最終回と予定をしているんですが、その施策の内容を見て、いま一度基本目標等を見ていただく中で、修正等があるのかなという感触を受けておりますので、皆さんお忙しいところ申し訳ないのですが、もしかしたらもう一度、年度内に開催させていただく可能性もあるかなというふうに感じておりますので、決定しましたら改めて、皆さんにご報告をしたいと考えております。

今日はかなりタイトなスケジュールの中でしたので、なかなかご意見が出せなかったということがございましたら、メールでも結構ですので、特に様式等は定めておりませんが、気軽にご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○藤井会長 どうもありがとうございました。

それでは、この我孫子市の会議におきましては、傍聴者の方にご発言をいただくという機会を用意してございます。傍聴の方、3分という形が規定のようでございますが、ご発言される方、いらっしゃいますでしょうか。よろしゅうございますか。

それでは、各委員の皆様から最後何かご連絡事項等何かあれば、よろしゅうございますか。

それでは、予定より大分長引いてしまいましたが、以上をもちまして、第4回審議会を終了したいと思います。

どうもありがとうございました。